

二宮町立山西小学校

研究テーマ：9年間を見通した共通性と一貫性のある指導・支援を通した、
「学びに向かう力」の醸成と資質・能力を育む指導のあり方(3年次)

1 実践の目的

二宮町では、令和5年4月より町内すべての学校が1つの施設分離型小中一貫教育校『にのみや学園』となった。学園の開校に向けて、にのみや学園の教職員全員の願いや想いを紡ぎ、教育目標を次の通り定めた。

『認め合い 高め合う 二宮の子』

この教育目標を実現するために、子ども同士の学び合いや話し合いを中心とした授業づくりに学園全体で共通性と一貫性をもって取り組んでいる。学級づくりの基盤や学習の進め方を揃えることで、子どもたちが安心して学んだり、進級したりできるようにするとともに、9年間を見通して子どもたちに必要な資質・能力の育成を図ることができると考える。

子どもたちに育みたい資質・能力を学園内で共通理解を図り、授業づくりを進めることを大事にしている。

二宮町で育みたい汎用的な資質・能力		
知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
①主体的に継続して勉強する	①必要な情報を集めて分析する	①多様な価値感の仲間を増やす
②多様な学びで知識を吸収する	②状況に応じて適切に判断する	②互いの違いを認めて高め合う
③知識を応用して上手に使う	③論理的で柔軟に思考する	③誇めずに自分の夢をかなえる
	④自分の考えを正しく伝える	

授業づくりでは、「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」を意識し、知識・技能だけでなく、思考力・判断力・表現力や学びに向かう力・人間性を一体的に育てて

いくための授業改善を図ることを意識している。

特に、3年次となる令和5年度においては、学びに向かう力を高めていくために、以下の内容も研究の視点に加えて取り組んだ。

- ・習得の授業における子どもの主体性
- ・日常生活や学校生活との関連付け
- ・学習活動や単元全体の目的意識の共有

2 実践の内容

(1) 研究体制

今年度も引き続き、教育力向上アドバイザー吉新一之氏（元川崎市立川崎小学校長）を講師に迎え、指導・助言を仰いでいる。

(2) 研究授業、研究協議の様子

今年度は6月23日に6年生による社会科、9月22日に5年生による道徳、11月22日に公開授業研究会を実施し、全学年が授業を行った。

6年生の実践では、教員が一貫性をもって同じ指導方法を継続してきた結果、学習の問いの確認から板書まで、授業の徹頭徹尾を子ども達が進行することができた。

5年生の実践では、「生きていること」について考える授業だった。子どもの自由な意見交換の話し合いと、



教師と子どものやり取りを通した活動の両面から思考の拡散・深化へアプローチした。

全学年の公開授業研究会では、国語、社会、書写、算数など、様々な教科で話し合いの授業を行う子ども達の姿を見せることができた。

今年度の研究協議では、「教師の役割」や1年生～6年生までの「発達段階による手立ての工夫」が主な話題となった。

3 実践の成果

小学生の最上学年である6年生において、研究を積み重ねてきた成果を見ることができた。「学び方」を子ども達がきちんと理解し、主体的に学習を進めることができるので、教師が不在の場合でも授業が成り立つようになった。全員が授業に参加する姿勢があり、意見を言いやすい環境があった。

11月の公開授業研究会があったことで、他市町村の先生方に見てもらうことにより、教師自身の刺激にもなった。発表のためではなく、日々の授業・生活を重視した研究なので、誰かに負担が大きくなることもなかった。

校内研究授業、公開授業研究会、それに係る協議を通じて、「教師の役割」が明確になった。子ども達だけの話し合いに囚われていた節があったが、教師との関わりの中で思考が拡散・深化することに気づいたことが大きな成果であった。6つの手立てをもとに子ども達に「学び方」の土台を築き、そこから子ども達と教師のやり取りを通してよりよい授業になっていく。



習得の授業については、話し合いの形により知識まで習得される場合もあることから、話し合いと習得の線引きをはっきりさせる必要が無い教科もあることが分かった。

しかしながら、低学年では発達段階的に教師による教授が効果的なものもあったり、高学年では扱う情報量の多さや複雑さもあり、単元をまとめ、整理する時間を設定したりする必要がある場合もあるので、話し合いを意図的に取り入れないこともあってよいと考える。

学校生活においても、クラブ活動や委員会活動では6年生を中心に自分達で活動内容を考えてたり、活動の反省を行ったりするなど、主体的に活動する授業が他の活動にも波及してきている。「教師の主導がないと何もできない」子ども達ではなくなってきている。



4 今後の展開

お互いに授業の参観を行うなど、授業に関しては教師の意識も高まり、子ども達も変容してきている。それに加え、授業以外のもっと細かな学級経営における担任の考えや子どもとの関わり方まで、校内で共有する場を設けていきたい。それを通して、進級による担任や子ども達の変化にさらに対応できる学校となっていくと考える。